

徳島県エコイベントマニュアル
ECO EVENT



徳島県 県民環境部
環境局 環境企画課

徳島市万代町1丁目1番地

TEL 088-621-2333 FAX 088-621-2845

E-mail kankyokikakuka@pref.tokushima.lg.jp

URL <http://ourtokushima.net/kankyo/>



古紙配合率100%再生紙・大豆インクを使用しています。

徳島県・とくしま環境県民会議

エコイベントにおける取組内容

イベント名 ()

○ごみ対策（1項目以上）

1 ごみ箱・清掃

- ごみ箱を適切に（目につく場所，十分な数）配置し，こまめな管理（決してごみを溢れさせない）を行うことにより，ごみを散乱させないように努めます。
- 散乱したごみは清掃を徹底し，環境の美化を図ります。

2 ごみ（分別回収）ステーション

- 発生するごみをできるだけ分別回収・リサイクルするとともに，来場者に対し，分別回収の呼びかけや実践などを通して，環境意識の向上を図ります。

3 リユース食器（システム）

- ごみの発生をできるだけ抑制するため，使い捨て食器の使用を削減して，その代わりにリユース食器（システム）を利用します。

4 ごみの持ち帰り，マイバッグ・マイ食器など

- 1から3の対策以外に主催者がイベントの特性に応じたごみ対策を工夫します。

○その他の環境配慮（1項目以上）

1 アイドリングストップ

- 駐車場等においてアイドリングストップを徹底し，地球温暖化の防止や資源の節約に努めます。

2 交通手段

- 会場アクセスの効率化やマイカーの自粛・削減策を講じることにより，排気ガスの削減や渋滞によるエネルギーロスの減少を図ります。

3 チラシ・ポスター・資料など

- チラシやポスター・資料などを作成する場合は，必要部数を精査して無駄を省くことや再生紙などを使用することにより，資源の節減やごみの発生抑制等に努めます。

4 仮設物・資材・物品等

- 仮設物の設置や資材・物品等を調達する場合は，できるだけ使い捨て品を避け，リユースできる物を選択・使用するとともに，リサイクル製品などのエコ商品を選択することにより，資源の節減やごみの発生抑制等に努めます。

5 スタッフの食事

- スタッフ等の食事は，弁当箱回収方式などの弁当殻が出ない物を採用することにより，ごみの発生抑制に努めます。

6 環境啓発

- 参加者や関係者に，当該イベントにおける環境配慮の取組内容の紹介やその協力を呼びかけること等により，環境に関する普及啓発を行います。

みんなのチカラで応援します！

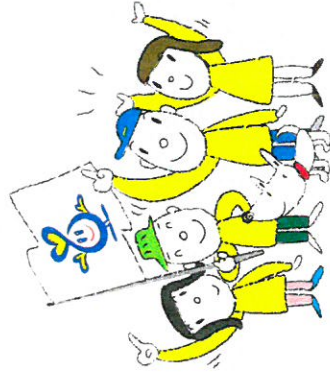
環境ボランティアに取り組み市民団体の皆さんを中心に「エコイベントサポートチーム徳島」を結成し、イベント主催者に対してエコイベントの実施を積極的に呼びかけるとともに、エコイベントを実施する主催者の支援を行います。

また、エコイベントを応援してくれる企業を賛助会員として募り、支援を求めます。

● サポートの内容としては

次のサポート方策を考えています。

- ① 「ごみステーション」「リユース食器」を導入するイベントに対して、導入の仕方や運営方法等についての相談やアドバイス、指導スタッフの派遣等を行います。
- ② 「ごみステーション」に必要な物品のレンタルを行います。
- ③ 「リユース食器」の導入経費に関する相談に応じます。
- ④ 幟や看板などエコイベントの実施に必要な広報物のレンタル等を行います。



※ 申込方法など、詳細な内容については別冊資料を参照してください。

エコイベント普及ワーキンググループ

委員

市民・民間団体	NPO法人徳島共生塾一步会	理事長	新聞
	なると「地球村」	事務局	芝 佳子
	とくしま環境カウンセラー協議会	事務局	津川なち子
事業者・事業者団体	まねぎNECOの会	代表	森本 初代
	財団法人徳島県観光協会	課長補佐	佐藤 晃雄
	北島町商工会	主席経営指導員	中野 英雄
マスコミ	四国放送株式会社 販促事業部	課長	小喜多雅明
	社団法人徳島新聞社 企画事業部	部長	柳田 篤衛
行政機関	徳島市 生活環境課	課長	山口 啓三
	阿南市 環境保全課	課長	笠原 光男

◎委員長 ○副委員長

オブザーバー

大学生	徳島大学 ボランティア部	部長	新井志勇人
イベント業者	徳島文理大学 人間生活学専攻科		古川 由梨
	県内イベント業者の有志の皆様にもご参加いただきました。		

ごあいさつ

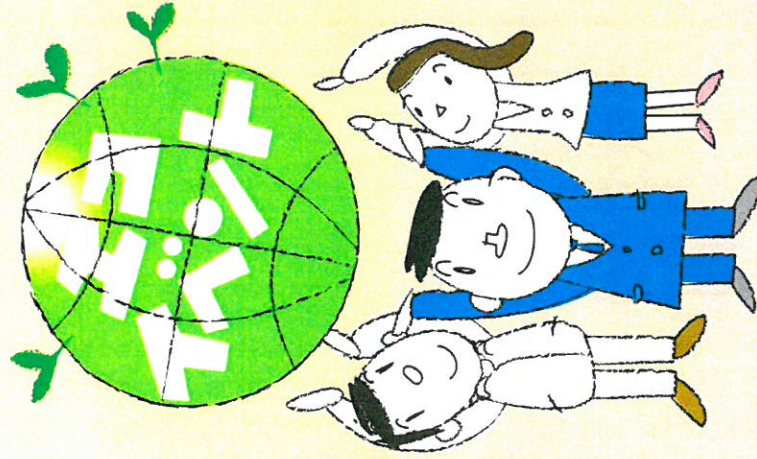
イベントと聞けば、にぎやかで心躍る楽しい行事を連想される人も多いと思います。しかしながら一方で、イベントは一度に多くの人が集まることにより、大量のエネルギー消費や廃棄物の排出等、多大な環境負荷も伴います。

これまでイベント主催者の皆さまには、こうした課題についての対応に苦慮されてきたことと思えます。

今回作成しましたこのエコイベントマニュアルをイベント企画の段階から活用され、またさらに、独自の知恵や工夫も盛り込んでいただきながら、環境配慮に優れたイベントを開催していただければと思います。

参加者全員が快適で気持ちのよいイベントを満喫できますように、このマニュアルが一助となりますことを、エコイベント普及ワーキンググループ一同、心より願っております。

委員長 津川なち子



エコイベントをはじめよう!

県では、一定の要件を満たしているイベントを「徳島県認定エコイベント」として認定します。

● 認定要件とは

徳島県エコイベントマニュアルに示されている「ごみ対策」を1項目以上、かつ「その他の環境配慮」を1項目以上、実施してください。
※独自の優れた取り組みがある場合は別に考慮いたします。

● 手続き方法等は

- ①「徳島県エコイベント認定申請書」を提出してください。
- ②認定されたイベントは、終了後に「実施報告書」の提出が必要となります。

● 認定を受けると

- ①「徳島県認定エコイベント」であることをシンボルマークを使ってPRできます。
- ②認定エコイベントであることをPRするための幟や看板、シンボルマークキャラクターの着ぐるみなどをレンタルします。
- ③県の広報媒体などを利用して認定エコイベントのPRに努めます。
- ④実施報告書に基づき、他のモデルとなるようなエコイベントを広く紹介します。



● 県の取り組みとしては

- ①県が主催（共催、県が主体的に関わる実行委員会主催も含む）するイベントにおいては、できるだけ認定を受けるよう努めます。
- ②県内の市町村が主催等するイベントに対しても、できるだけ認定を受けるよう協力を求めています。

※認定手続きなど、詳細な内容については別冊資料を参照してください。

3 チラシ・ポスター・資料など

資源の節約、ごみの削減を！



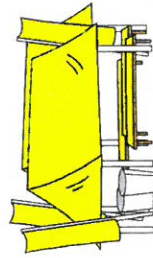
チラシやポスター・資料などを作成する場合は、必要部数を精査して無駄を省くことや再生紙などを使用することにより、資源の節減やごみの発生抑制等に努めます。

- 事前に精緻な配布計画を策定し、必要部数を作成します。
- できるだけ古紙ハルバ配合率が高いものや白色度の低いものなどを用紙として使用します。

対策

4 仮設物・資材・物品等

リユース、リサイクルの実行を！



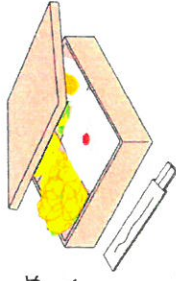
仮設物の設置や資材・物品等を調達する場合は、できるだけ使い捨て品を選び、リユースできる物を選択・使用するとともに、リサイクル製品などのエコ商品を選択することにより、資源の節減やごみの発生抑制等に努めます。

- 調達物品等の一覧表などを作成し、事前にリユース品・エコ商品の使用の可否についてチェックを行います。

対策

5 スタッフの食事

スタッフの食事から考えよう！



スタッフ等の食事は、弁当箱回収方式などの弁当殻が出ない物を採用することにより、ごみの発生抑制に努めます。

- 繰り返し使える弁当箱で提供・回収してもらえるなど弁当殻の出ない方式に対応できる弁当業者等を選定し、発注します。

対策

6 環境啓発

一人ひとりに呼びかける！



参加者や関係者に、当該イベントにおける環境配慮の取組内容の紹介やその協力を呼びかけること等により、環境に関する普及啓発を行います。

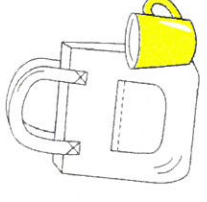
- チラシやポスター・パネルなどにより、環境配慮の取組内容の紹介やその協力を呼びかけるとともに、その理由や効果等の周知も図ります。
- ※アンケートの実施なども考えます。

対策



4 ごみ持ち帰り、マイバッグ・マイ食器など

ごみ対策を工夫しよう!



● 1～3の対策以外に主催者がイベントの特性に応じたごみ対策を工夫します。

- ごみの持ち帰りやマイバッグ・マイ食器の持参を呼びかけるなど、ごみ対策を工夫し、実施します。
- ※事前に十分なPRを行うとともに、協力者への特典を設定するなど工夫を行います。
- ※ごみ持ち帰りの場合は、原則としてごみ箱は設置しません。



リユース食器システム導入の仕方

運営団体に連絡を取り、イベントの日程や内容・規模などを説明し、システムの導入を予約します。(できるだけ早めのアポイントが必要です。)
※連絡先は前ページ参照

必要な食器の検討
 イベントで販売予定の「食品名」「食数」「希望する食器」などを運営団体に知らせて必要な食器の種類や数を検討してもらいます。
※食器は耐熱温度120度のプラスチック(ポリプロピレン等)製です。どんぶり(大・中・小)、皿(平・深・カレー)、コップ(大・中・小)などがあります。

食器洗浄機設置場所の検討
 洗浄機の設置にあたっては、次の条件をクリアすることが必要です。
 ①1キロワットの電源を確保。
 ②独占的に水道の蛇口を確保。(一定の水圧で繋ぎっぱなし)
 ③プロパンガスの利用ができること。
 ④洗浄機の足下が氷平を保てる状態であること。
 ⑤排水の方法を確保。(排水施設に繋がらない場合はバケツなどに溜めて対応)
※来場者への環境啓発として洗浄機はなるべく目につく場所に設置すると良い。



食器の回収方法の検討
 食器回収プースの設置はイベントの規模や飲食の場所・人の流れなどを考慮し、数や場所を決めます。(店舗で回収することも可能です。)

スタッフの確保
 食器の回収、洗浄(拭く)、配達などを担当するスタッフが必要です。
※運営団体からは指導スタッフの派遣があります。

周知方法等の検討
 出店業者への事前説明や来場者へのチラシ等による事前のお知らせ、看板や場内放送等による当日の案内などの周知が必要です。



必要経費
基本費用 120,000円～/日(規模や内容によっては、もっと低価格になります)
※実施計画の立案、リユース食器・洗浄機・備品類のレンタル、指導スタッフ(2人程度)の派遣などの費用が含まれています。

運搬費用 トラックの往復交通費程度
※リユース食器が紛失した場合は、その補填金が必要となります。

独自のシステム

独自で食器を調達し、洗浄体制等を整えて実施することも可能です。
※運搬経費と紛失・井値金などわずかな負担でリユース食器を貸し出せる団体があります。
 食器の種類など詳しいことはお記にお問い合せください。
 リユース食器ネットワークWEBサイト(<http://www.reu-se-network.jp>)も参考にしてください。

徳島ヴォルティスの取り組み

● 「マイカップシステム」を実施中
 空き缶や紙コップなどのごみを削減するため、飲料を飲むための容器を試合ごとに持参していただくという取り組みです。徳島ヴォルティスでは、オフィシャルグッズの一つとして、オリジナルエコタンブラー(写真)を販売しています。



● ごみの持ち帰り運動の促進
 観戦の際に発生したごみは、お持ち帰りいただくようお願いしています。

※エコタンブラーを900円で販売
 持参者にはビール100円引き、
 ジュース50円引き

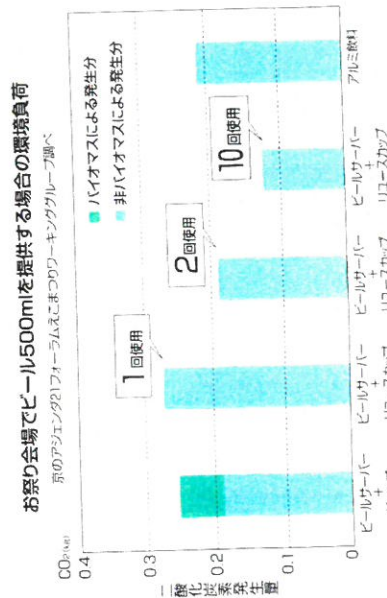
3 リユース食器（システム）

ごみの減量につながります！

- 発生抑制
 - ごみの発生をできるだけ抑制するため、使い捨て食器の使用を削減して、その代わりにリユース食器（システム）を利用します。
- 削減
 - 飲食物の販売等に対して、リユース食器（システム）を導入します。

リユース食器の有効性

使い捨て容器を使用する場合とリユース食器を使用する場合とは、二酸化炭素（CO₂）の排出やエネルギー消費、廃棄物といった、環境に与える負荷量が異なります。一般にはリユース食器を使用する回数が増えるほど、1回あたりの負荷量は減り、ごみの減量効果や地球温暖化の防止、資源の節約につながります。



* バイオマスは「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を代ったもの」です。バイオマスから発生するCO₂は循環が回成です。

リユース食器システム（環境対策支援便RE-ECO）とは

お祭りなどのイベントに対して、リユース食器のレンタル、野外でも使用できる洗浄機による現場での食器洗浄、その運営などの支援に加え、ごみの減量相談や提案なども行うトータルな環境対策支援システムです。



● 運営団体
NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone
 環境対策支援事務局
 〒604-8187
 京都市中京区東河院通御池下る笹屋町445 日宝烏丸ビル2F-1
 TEL.FAX. 075-231-4356
 E-mail: info@ecotone.jp (担当:太田)

ごみステーションの作り方とスタッフの仕事

1 開始前の準備

- 設置場所に準備物を持ち込みます。
- 長机に回収箱を並べ、表示札を取り付けます。
手洗い用などの水、拭き布も用意します。
- ※雨や日よけのためのテント、休憩用の椅子などもあれば便利です。
- 織や案内看板などを設置します。



2 回収の開始

- 捨てて来た人への声かけや指導を行います。
- ※分別はできるだけ本人にやってもらった方が良いと思われ
ます。
- ※同じ種類の容器は重ねていくと容量が随分減ります。
- 机上の回収箱が一杯になったら、種類別にごみ袋に移します。
- ※来場者にごみの発生量を見せるため、回収箱が一杯になっ
てから移した方が良いと思われ
ます。
- ※飲み残しについては、バケツ等に溜めておきます。



3 終了後の仕事

- 回収したごみは所定の場所に運び、引取先に引き渡します。
- ※次回以降の参考とするため、回収量は記録した方が良いと思
われます。
- 汚水は下水道に流すなど、適正に処理します。
- 準備物等を片づけ、撤収します。



回収箱一杯になったごみ



種類別に袋に移されたごみ

● 分別回収するごみの種類と引取先（参考事例）

分別の種類	引取依頼先(事例)	回収時の処理の仕方	リサイクル又は処分方法
アルミ缶	自治体・資源回収業者	飲み残しをきちんと捨てる	アルミ缶・アルミ原料
スチール缶	自治体・資源回収業者	飲み残しをきちんと捨てる	製鉄原料
ペットボトル	自治体・資源回収業者	飲み残しをきちんと捨てる、 キャップとラベルをとる	衣料・カーペット・ベットのボルトなど プラスチック原料
ガラスびん	自治体・資源回収業者	飲み残しをきちんと捨てる、 キャップをとる	ガラスびん・ガラス原料
割り箸	製紙工場	ごみ袋へ移す前に軽く洗う	製紙原料
プラスチック	自治体	食べ残しをきちんと捨てる	適正処分 ※汚れない物や洗浄した物は リサイクルできる場合がある
紙など可燃物	自治体	食べ残しをきちんと捨てる	適正処分
食べ残し	自治体		可燃物として適正処分
飲み残し	自治体		汚水は下水道に流すなど適正に処理
その他	自治体など		

※汚れない物はリサイクルできない場合や自治体により分別方法が違う場合などがありますので、回収時の処理の仕方については事前に引取先と相談してください。

※出店業者の業務から発生するごみなど来場者以外のごみについては、ごみステーションで扱うかどうか検討を要します。

● 準備物一覧

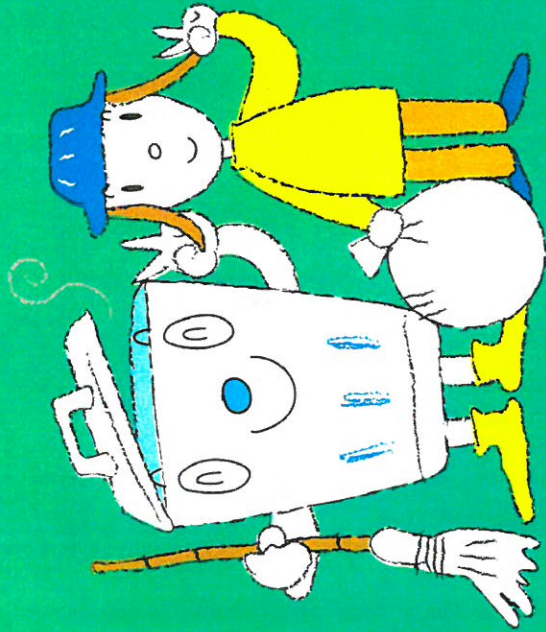
備 品	内 容・数量など
長 机	分別の種類数にもよるが、通常、1箇所につき2~3台必要
※テント・椅子	※テント・椅子もあれば便利
ごみ回収箱	分別の種類に合わせて用意 ※食べ残し・飲み残しにはバケツに ザルを載せた物を用意 ※食べ残しを落とすヘラやペットボ トルのラベルを剥がすハサミ・カ ッターなどもあれば便利 ※割り箸など細長い物や小物はペットボトルを半分に取り取った物が便利
ごみ表示札	分別の種類に合わせて用意 ※リサイクル後の製品名なども記載するとより良い
バケツ等	手洗い水用と汚水入れ用の2個を用意
拭き布	机の上などを拭く
織・看板など	目立つ物が良い
ごみ袋	回収したごみを移し替えるための物 ※種類によって集まる量が異なるため、大小の種類くらい用意した方が良い
台 車	水などを運ぶために必要
ごみ回収量記録用紙	
筆記用具・紐・ガムテープなど	
スタッフ証・ユニホームなど	大きなイベントでは、スタッフが自立つよう統一ユニホームの着用ができれば効果的



ごみ対策

(ごみゼロ作戦)

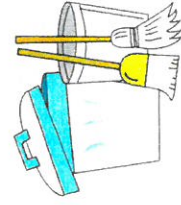
イベント会場での環境対策の基本は、ごみを管理すること。まず、ごみを散乱させないこと。次に分別し、再生利用すること。そして、もっとも大切なことは、ごみの発生を極力少なくすることです。リデュース、リユース、リサイクル(3R)で、ごみゼロをめざしましょう。



1 ごみ箱・清掃

ごみの散乱を防ぎましょう!

- ごみ箱を適切に(目につく場所、十分な数)配置し、こまめな管理(決してごみを溢れさせない)を行うことにより、ごみを散乱させないように努めます。
- 散乱したごみは清掃を徹底し、環境の美化を図ります。



はじめよう

対策

- ごみ箱の設置個所・管理方法の適切な計画を立てます。
 - ごみ箱を管理するスタッフ(できれば専任)を置き、ごみを溢れさせないように管理します。また、散乱しているごみは、スタッフが定期的に巡回して回収します。
 - 出店業者がある場合は、出店要件に自らが発生させるごみの回収やイベント終了後の清掃を義務づけれます。
 - 回収したごみは適正に処分します。
- ※ できれば、資源ごみ(アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・ガラス瓶など)用のごみ箱を設置して分別回収し、市町村又は資源回収業者に引き取ってもらい、リサイクルします。この際、事前に引取先との十分な協議を行います。

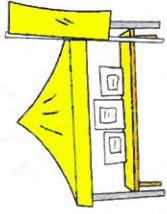
※ できれば、出店業者の中から、美化責任者(マナーリーダー)等を選択して、ごみの自主管理を促すとともに、非協力的な出店業者にはペナルティを課すことも考えます。



管理ができていないごみ箱

2 ごみ(分別回収)ステーション

ごみのリサイクルを進めましょう!



発生するごみをできるだけ分別回収・リサイクルするとともに、来場者に対し、分別回収の呼びかけや実践などを通して、環境意識の向上を図ります。

はじめよう

- スタッフが常駐する「ごみ(分別回収)ステーション」を設置し、来場者への周知を行います。
- 来場者が「ごみステーション」でごみを分別して捨てるよう、呼びかけや指導などを行います。
- 分別回収したごみは、市町村又は資源回収業者に引き取ってもらい、リサイクル可能なごみについてはリサイクルします。その際、事前に引取先との十分な協議を行います。
- 原則として、ごみ箱を設置せず、既設のごみ箱も使用禁止とします。

対策



「ごみゼロ阿波瀬の大作戦」でのごみステーション

■ ごみステーション導入の仕方

● 設置場所の選定

イベントの規模に応じて設置数を決め、飲食の場所や人の流れなどを考慮して場所を選定します。



● 分別するごみの種類と引取先の検討

発生するごみを想定して分別の種類を決め、それぞれの引取先を確保します。次ページの参考事例を参考にしてください。



● スタッフの確保

ステーションの規模や分別の種類数等にもよりますが、通常、1箇所に4～6名必要です。



● 備品等の準備

次ページの準備物一覧を参考にしてください。



● 周知方法の検討

チラシ等による事前のお知らせや案内看板・場内放送などによる来場者への周知が必要です。

